

今回は、MONITOUCH EXPRESS 第38号 (2013年8月号) で予告した『マクロでひと工夫 !!-Part2-』をお届けします。
Part2では、マクロを使ってオーバーラップを自動消去するアレンジをご紹介します。ぜひ、ご活用ください !!

オーバーラップの自動消去

スイッチ操作時に注意喚起を促すために、オーバーラップを表示していませんか？

このような場合、[OK] ボタンを押してオーバーラップを消す操作が一般的です。

[OK] ボタンを押さなくても、自動的にオーバーラップが消えてくれるとスムーズだと思いませんか？



毎回の操作がちょっと面倒なんだよな…。

すぐに次の操作ができれば良いのに…。

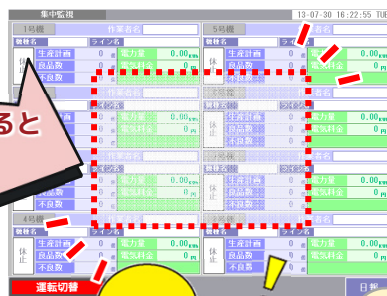
マクロでひと工夫 !!

動作イメージ

マクロを追加して、一定時間経過後にオーバーラップを自動消去します。消去までの時間はユーザ側で任意に設定 (0sec~25.5sec) できます。



設定時間を経過すると自動消去 !!



ちょっとした工夫でずいぶん変わるんだ !!

操作がひと手間省けるだけで、ずいぶん操作性が向上するな…。

裏面へつづく

マクロをひと工夫すれば、貴社ならではの画面に仕上がります !!
標準機能を応用して、貴社独自の画面作成にお役立てください !!

画面構成



マクロ設定

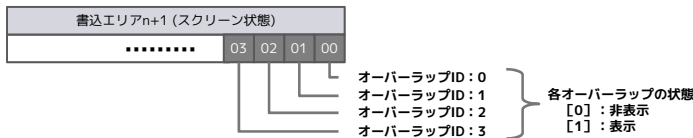
1. マクロブロック(登録項目⇒マクロブロック)

[No.0]
 \$u00150 = 0 (W) ———— オープラップID No.
 \$u00151 = 0 (W) ———— 動作 (0: OFF, 1: ON) } オープラップID: 0を非表示にする。
 SYS (OVLP_SHOW) \$u00150

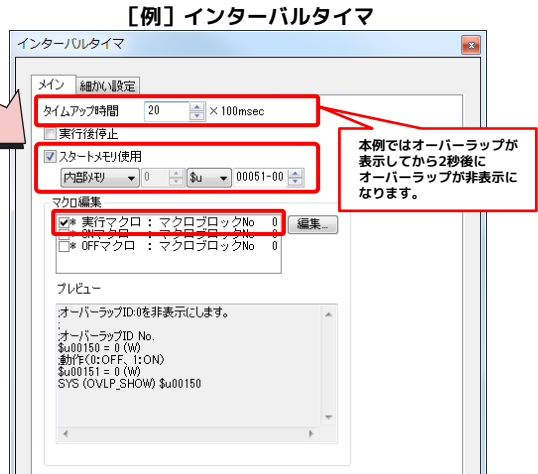
2. インターバルタイマ(パーツ⇒マクロ⇒インターバルタイマ)

[タイムアップ時間]
 オーバーラップが自動消去までの時間 (0~25.5sec) を設定します。

[スタートメモリ使用]
 オーバーラップの表示状態が出力される書込エリアn+1のビットを設定します。
 これにより、オーバーラップが表示したと同時にこのタイマが動き出します。
 ※本例では書込エリア\$u50~, オーバーラップID: 0のため
 内部メモリ\$u51-00に設定します。



[実行マクロ]
 手順1. で登録したマクロブロックNo.を指定します。



3. 操作スイッチONマクロ

運転状態によって条件分岐させ、条件を満たした場合にオーバーラップを表示させます。

IF(\$u00500 == 1) (W) ———— 運転状態を\$u500で判別。条件を満たした場合(本例では値が1)に次行以下を実行。
 \$u00100 = 0 (W) ———— オープラップID No.
 \$u00101 = 1 (W) ———— 動作 (0: OFF, 1: ON) } オープラップID: 0を表示する。
 SYS (OVLP_SHOW) \$u00100
 ELSE
 ENDIF

▼サンプル画面のダウンロードはこちら

http://www.hakko-elec.co.jp/mainte/data/jp/download/express/EXPRESS_1310.zip

マクロコマンドについて詳しくは『マクロリファレンス』を参照してください。

※V-SFT-5のヘルプメニューから参照できます。

【連絡先】

発紘電機株式会社

モニタタッチコールセンター

TEL : 0120-929-299

※ 携帯電話からは076-274-5130

FAX : 076-274-5208

E-Mail : gijyutsu1@hakko-elec.co.jp